

## テクノスジャパンと九工大が知識のA I 化共同研究開始

2021/05/14 科学新聞 2ページ 837文字

(株)テクノスジャパンと九州工業大学情報工学部は、4月から「商流・物流の運用知識体系化とその応用に関する研究」をテーマに、知識のA I 化に関する産学共同研究を開始した。これに伴い、テクノスジャパン e-Z U K A イノベーションラボとして、福岡県の飯塚市新産業創出支援センター（e-Z U K A トライバレーセンター）内に研究室の機能を備えたサテライトオフィスを開設した。

業務のシステム化が進み企業内、グループ企業内のデータが一元管理されるようになり、業務効率化が促進されてきた。ただ、業務効率化が進む一方で、企業間取引業務についてはまだまだ効率化の余地が残されている。今でも情報が可視化されず人の経験による判断に依存している業務が少なくない。

テクノスジャパンは、企業間におけるデータ活用による業務の効率化を目指し、商流・物流データを企業間でつなぐ独自のプラットフォーム（C B P）を構築し、様々な企業、サービスとの連携を図っている。九州工業大学情報工学部は、専門家が持つ高度な専門知識を整理してコンピュータで取り扱える形に表現し、知識ベースシステムに組み入れるための研究開発を様々な分野を対象として進めている。

共同研究は、テクノスジャパンが持つ商流・物流業務に関する知見と、九州工業大学情報工学部が持つ人の知識の体系化に関するノウハウを掛け合わせることで、商流・物流において発生した問題点の検知と、その解決方法に関する知識や経験の機械化を目指す。

これにより、企業が商流・物流のP D C Aサイクルを適切に回し、限られた資源の効率利用、無駄の削減に寄与できると期待される。

テクノスジャパンは、今後、飯塚市内のI T企業や製造業と連携して「物流情報の取得と商流情報との繋ぎに関する研究」を行い、今回の共同研究成果を組み合わせることで、「商流と物流（追跡）をつなぐ」をテーマにした企業間の受発注・物流業務の効率化、高信頼化、見える化を図るシステムの構築および実用化を目指すとしている。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報(以下「情報」)の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.